

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 令和6年12月8日(日)

会 場 : ソニックシティ

テ ー マ : Challenge!

サブテーマ : ~ 多様化するニーズへの実践と進化 ~



第52回埼玉県医学検査学会
事務局兼学術部 大塚 幸成

今回は一般演題、CM演題、学生演題のスライドデータ送付方法についてご案内いたします。発表用スライドデータ(Microsoft Power Pointで作成)は原則E-mail(以下メール)での送付となります。

ただし、ファイル容量が大きく添付が困難な場合は下記連絡先へお問い合わせください。

《送付方法》

- 1) 1演題につきメール1通に添付し送信してください。
- 2) メール「件名」を「演題番号 - 氏名」としてください。
例) 生1 - 埼玉太郎
演題番号は、演者へのメールまたは第52回埼玉県医学検査学会HPにて、「会場別演題発表タイムテーブル」をご確認ください。
- 3) 本文には何も記載しないでください。
- 4) 添付するファイル名はメール「件名」と同じにしてください。
- 5) 送付いただいたメールのデータは実行委員会にて責任を持って消去いたします。

《送付期限》

令和6年11月1日(金)~11月15日(金)必着

※複数回送付いただいても差し替えはできませんのでご注意ください。

※送付方法にかかわらず、スライドデータの受付から1週間以内に受付確認のメールを送信いたします。

※送付から1週間が過ぎても連絡のない場合は、下記までお問い合わせください。

《スライドデータ送付先および問合せ先》

学術部 小原 明(埼玉県済生会川口総合病院)

E-mail: 52samt.endai@gmail.com TEL: 048-253-8562(直通)

第52回埼玉県医学検査学会
運営部 横山 静織

第52回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当しております、株式会社TLC戸田中央臨床検査研究所の横山と申します。

本学会では、参加される皆様の未来へのChallenge、新たな一步を踏み出すきっかけとなるような企画を準備しております。今回は、市民公開講演と特別講演をご紹介します。

市民公開講演 「糖尿病のはなし ～しくじり患者にならないために～」

市民公開講演では糖尿病専門医である戸田中央総合病院 副院長の田中彰彦医師をお招きし、糖尿病治療、療養支援についてご講演いただきます。糖尿病との上手な付き合い方を学びませんか？ぜひご家族や身近な方をお誘い合わせのうえご参加ください。

特別講演1 「医療人としての人生を肯定的に歩む」

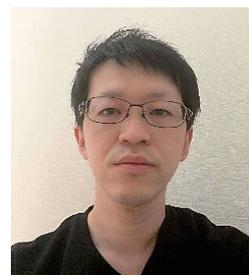
特別講演2 「災害支援シンポジウム」

特別講演は二つご用意しております。一つ目は、昭和医療技術専門学校 学校長の山藤賢先生による「医療人としての人生を肯定的に歩む」です。働き方に悩んでいる、人との関わり方に悩んでいる、そんな方に聴いていただきたいご講演です。二つ目は、「災害支援シンポジウム」です。令和6年能登半島地震にて医療支援活動に携わった医師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師の4名を講師にお迎えします。災害医療の実際のお話を伺うことができる貴重な機会です。さらに教育講演、研究班企画、青年部企画とまだまだ盛りだくさんです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



県医師会精度管理発送作業に参加して

この度は、令和6年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業に、初めて参加させていただきました。この作業に参加させていただく前まで精度管理試料というのは、病院に届いた箱詰めにされた状態のものしか見たことがありませんでした。それ故に試料がどのような人たちによって、どのような手順で準備されているのかなどは、お恥ずかしながら考えたこともありませんでした。作業でまず驚いたことは、試料の箱詰め作業が基本すべて手作業でおこなわれていたという点です。作業は各部門の研究班・班員3名ずつ集まりおこなわれました。横から次々と流れてくる箱に、各部門の班員がそれぞれ該当する試料を箱に入れていきます。そして箱に入れた試料に間違いが無いということを班員同士で何重もチェックし、最終的には配送用袋にバックされていく、というようなものでした。工場の製造ラインを想像してしまうその光景に新鮮味を覚えながらも、絶対にミスが許されないという重圧感もあり、とても貴重な体験をしました。何気なく届く精度管理試料ですが、その奥には数々の人の関わりがあり、また思いがあることを今回の発送作業から知り得ました。



最後になりますが、今回の作業が無駄になることなく、各施設における精度管理の一助になることを願っております。この願いがほんの少しでも箱詰めされた試料を通して、皆様方に伝われば幸いです。ありがとうございました。

(文責：埼玉医科大学総合医療センター 新井 雅人)

研究班研修会報告

テーマ 【第2回エコーハンズオン】 陰嚢超音波検査をはじめよう

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年8月4日 13時30分～16時30分
会場：BearMedi 事務所 教科・点数：専門教科ー20点
講師：石丸 直（埼玉医科大学病院）
参加人数：会員7名
出席した研究班班員：南雲涼太 島内一輝
研修内容の概要・感想など

6月に開催した超音波実技講習会に引き続き、第2回目のハンズオン企画である。超音波装置は1台、参加者4名、スタッフ2名、講師1名の計7名で開催した。

初心者を対象とし、陰嚢超音波検査における検査準備、患者の体位と走査法を学び、陰嚢内容の解剖、正常画像の理解、主な疾患における超音波画像の特徴について講義をしたのち実技講習をおこなった。石丸氏より精巣、精巣上部、精索を中心にライブデモをおこなった後、実際に参加者が描出をおこなう形で講習を進行した。

施設によって症例数にバラツキがあり参考資料や文献が多くないこと、領域的に容易に練習ができず苦手意識をもつ技師も少なくない。プローブを握り、実際に描出した画像についてその場でアドバイスを受け修正していくことができるのは実技講習の大きな利点と考える。石丸氏から、臨床症状や身体所見を理解し正常画像を理解することが大切で、両側性の疾患が少ないことから、「左右の陰嚢を観察し比較することが重要」とメッセージがあった。陰嚢はスクリーニング検査として依頼されることはまれで、多くは何らかの症状を伴った患者が対象となるため、正常画像の理解がなければ病変に気づけない可能性がある。また、急性腹症の鑑別疾患や今後の生殖機能を大きく左右するものまで多彩な病態を示すため、正確で迅速な診断が要求される。セミナーで得たことを臨床に還元されることに期待したい。

今回、教育、指導できる専門医、先輩技師が少ない陰嚢をテーマにハンズオンセミナーを開催した。他都道府県や民間でおこなわれているハンズオンセミナーでの企画でもあまり見かけない、需要、実用性の高い講習会を今後も積極的に企画していきたいと思う。

(文責：島内一輝)

テーマ 細胞診標本実習 細胞検査士認定試験へ向けて

主催 細胞検査研究班

実施日時：2024年8月10日 9時00分～13時00分
会場：学校法人 明星学園 国際医療専門学校 臨床検査実習室 教科・点数：専門教科ー20点
講師：鶴岡 慎悟（独立行政法人 地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター 病理診断科）
船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）
急式 政志（地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター）
野本 伊織（埼玉県済生会 川口総合病院）
猪山 和美（自治医科大学附属さいたま医療センター）
稲山 拓司（深谷赤十字病院）
小川 弘美（社会医療法人財団 石心会 埼玉石心会病院）
並木 幸子（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）
加藤 智美（埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科）
中山 美咲（防衛医科大学校病院）

参加人数：会員30名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 野本伊織 猪山和美 稲山拓司
小川弘美 並木幸子 加藤智美 中山美咲

研修内容の概要・感想など

本研修会は、細胞検査士認定試験の実技対策を目的として、細胞診標本実習を主とした鏡検実習を実施した。実習はスクリーニング26症例と同定33症例の多くの症例を用いた鏡検を中心に行なった。これらの症例は、過去の細胞検査士認定試験の出題傾向を踏まえて準備した。

県内外から多くの会員の応募があり、細胞検査士認定資格をまだ取得していない県内会員を優先し、抽選で選ばれた県外会員数名を含む合計30名で実施した。

実習では、標本に対する詳細な解説を準備し、参加者が理解しやすいように工夫した。参加者からの質問には、細胞検査研究班の講師が個別に丁寧に対応した。参加者から、「試験に近い形で実習を行うことができ、大変有意義だった」という感想も寄せられた。

(文責：鶴岡慎悟)

テーマ **凝固検査を見つめ直す 基礎から経験事例まで part①**

- ・凝固検査の基礎から薬剤の影響に関連する異常値まで
- ・経験から学ぶ 凝固・線溶検査

主催 血液検査研究班

実施日時：2024年8月23日 19時00分～21時00分

会場：さいたま市民会館 おおみや (RaiBoC Hall) 6階 集会室1

教科・点数：専門教科ー20点

講師：須長 宏行 (積水メディカル株式会社)
中山 智史 (防衛医科大学校病院)

参加人数：会員42名 賛助会員6名

出席した研究班班員：中山智史 堀口大介 堀内雄太 澁川絵美 吉澤悟 窪田勝己
山崎淳也 島田崇史

研修内容の概要・感想など

『凝固検査の基礎から薬剤の影響に関する異常値まで』と題して、凝固検査の基礎、薬剤の影響に関連する異常値、採血管の取り扱いについて講演が行われた。凝固検査の基礎では、凝固検査の目的や凝固反応に必要な3要素、血液凝固系カスケード、プロトロンビン時間 (PT)、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)、フィブリノゲン (Fbg) について、項目ごとに概要や特徴、反応系、診療での活用のされ方について解説された。薬剤の影響に関連する異常値では、抗凝固薬として長く使われてきたワーファリンや、ここ数年で新たに登場した直接経口抗凝固薬 (Direct Oral AntiCoagulants : DOAC) やヘパリン類などについて、各薬剤の特徴や比較、作用機序、セフェム系抗生物質影響などについて解説された。DOACは薬剤によって、標的とする凝固因子や投与回数、半減期や腎排泄が異なること、ワーファリンとDOACそれぞれの長所と短所を知ることができた。

『経験から学ぶ 凝固・線溶系検査』では、凝固検体の取り扱いからピットホールに関して、R5年度埼玉県医師会精度管理調査 凝固・線溶検体取り扱いアンケートの結果報告を交えながら解説された。正確な結果報告をするためには2016年に日本検査血液学会標準化委員会凝固検査標準化ワーキンググループから提唱された『凝固検査検体取り扱いに関するコンセンサス』に則って検体処理をすることが望ましいとされている。埼玉県内施設でも凝固・線溶検体取り扱いに関するコンセンサスを知らない施設、遠心分離条件や温度設定、検体保管温度などコンセンサスに則っていない施設が一定数存在するとのことだった。また、日常検査で遭遇するフィブリン析出や検体凝固、検体量不足により起こりうる異常値の症例や写真が示され、検体の確認方法や対処法が解説された。

検査の始まりは採血からであり、採血管の種類や抗凝固剤の特徴を理解し、正確な結果報告をするために正しい採血手技や採血管の取り扱いをすることが大切であると改めて感じた。

今後も血液検査研究班として、研修会で凝固検査検体に関するコンセンサスや採血手技など血液検査に関わる情報を提供し、検査の基礎から知識が習得できるよう継続的な研修が重要であると感じた。

(文責：島田崇史)

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第7回 理事会議事録**

日 時：令和6年9月12日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部
西田 三木 佐瀬 網野 伊藤
藤原 塚原 神嶋 長谷川
神戸 小林 工藤 久保田
長岡 原 土田

(監事)遠藤

Zoomにて出席

(理事)笛木

欠 席：(監事)細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年8月8日～令和6年9月11日)

8月2日(金)第1回総務部会議：

猪浦、三木、佐瀬、伊藤、網野、藤原

8月8日(木)令和6年度第6回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、三木、佐瀬、伊藤、塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、工藤、久保田、長岡、原、土田、遠藤、細谷

8月8日(木)第24回わらび健康まつり第2回実行委員会：塚原

8月8日(木)霞ヶ関子供見学デー実務委員：濱本

8月15日(木)第52回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、三木

8月15日(木)事務所巡回：西田

8月18日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県027)：猪浦、佐瀬、長谷川、神嶋、小林、伊藤(隆)

9月6日(金)HP委員会：濱本、塚原

9月7日(土)埼玉県医師会精度管理発送準備：松岡、山口、濱本、神戸、長谷川、小林、工藤、土田、西田、原

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 8月7、8日(水・木)霞ヶ関子供見学デーの臨床検査体験ブースの実務委員として会員2名を派遣した。(別紙資料1)

2) 日臨技より地域ニューリーダー育成研修会受講者推薦の依頼があり塚原事業部長を推薦するとした。

3) 8月19日(月)埼玉県より、公衆衛生事業功労者に対する知事表彰について当会より推薦した4名の会員の受賞が決定した。

瀧沢 義教 氏

(獨協医科大学埼玉メディカルセンター)

坂口 武司 氏 (なんてんクリニック)

松尾 千賀子 氏

(埼玉医科大学総合医療センター)

矢作 勝江 氏

(独立行政法人 地域医療機能推進機構

さいたまメディカルセンター)

4) 8月19日(月)第60回全国糖尿病週間行事の後援依頼が届き承諾した。

5) 9月5日(木)科学技術振興機構 著者抄録利用許諾更新の回答をした。

2 総務部

1) 8月2日(金)第1回総務部会議を開催した。(別紙資料2)

2) 8月18日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県027)を開催した。(別紙資料3)

3) 令和6年度会員名簿発行準備に伴い複数社に見積もりを取っている。(別紙資料4)

4) 9月6日(金)第1回HP委員会を開催した。(別紙資料5)

5) 9月15日(日)だより第544号発行予定。

6) 9月15日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県028)を開催予定。

佐瀬(責任者)、濱本、塚原、伊藤(隆)、網野

3 事業部

1) 第24回わらび健康まつり第2回実行委員会へ参加した。(別紙資料6)

2) 第52回埼玉県医学検査学会での青年部学会企画にて、養成校連絡協議会へ学生アンケートへの協力依頼があり、対応を行った。(別紙資料7)

3) 検査と健康展 企画書・予算書を日臨技へ提出した。

4 学術部

1) 10月1日(火)令和6年度第2回研究班運営委員会会議を開催予定。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 令和6年度正会員費23名115,000円、入金金17名17,000円、再入金金6名6,000円、合計138,000円の入金があった。

2) 令和6年度会費1名5,000円を返金した。

- 3) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金50,000円の入金があった。
- 4) 石井印刷に埼臨技だより第543号Web版13p 63,800円を支払った。
- 5) 研修会整理費の領収書を更新した。
(別紙資料8)
- 6) 研修会収入の現状について(別紙資料9)
- 7 精度管理委員会**
- 1) 令和6年度埼玉県医師会精度管理発送作業を実施した。
- 8 一都八県会長会議** 特になし
- 9 日臨技関甲信支部** 特になし
- 10 日臨技**
- 1) 9月27日(金)、28日(土)大規模災害模擬対応訓練の協力依頼あり松岡会長が対応する。
- 11 第52回埼玉県医学検査学会**
- 1) 8月15日(木)第11回実行委員会が開催した。
(別紙資料10)
- 2) 学会企画にて青年部アンケートを実施予定。
- 3) 協賛広告について、原稿が未提出である会社が1社ある。
社名変更中のため原稿なしで協賛企業一覧に掲載のみの提案があった。
社名変更中であり、今年度は協賛無しの方で検討する。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和6年度分)
令和6年9月1日現在
会員数 3,678名 [令和5年度会員数3,572名]
(新入会員249名)
賛助会員 72社 [令和5年度71社]
承認された。

2 総務部

- 1) HP委員会より公式LINE(有料)を導入し、

会員へ技師会の案内を配信したい。

上記の件について、濱本隆明HP委員長より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

- 1) 2月15日(土)に開催されるニューリーダー研修会のグループワークファシリテーターを新任理事に依頼したい。

上記の件について、塚原晃事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会 特になし

9 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会 特になし

Ⅳ. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部

- 1) 創立70周年記念誌の発行について

120ページ程度にした案が提示された。発行部数は500冊を予定している。

原稿提出は10月末日までとし、11月20日までに校正を終了。12月中旬発送を予定している。

- 2) 会員名簿のダイヤルイン施設一覧について、今年は一斉メールによる確認は行わない予定。

上記の件について、三木 隆治総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

今月号もお読みいただきまして、ありがとうございます。

「だより」の「あとかき」を初めて担当させていただきます。

今年の夏も本当に暑かったですね。やっと朝晩はしのぎやすくなってきましたが、本格的な秋の訪れはもう少し先な感じでしょうか。一番身近な秋といえば…店頭では色鮮やかな秋の味覚が並び、日々食欲をかき立てられています。「旬」「限定」「値引き」などの表示との戦いに負け続け、ついつい買い込んでしまいがちです(秋に限ったことではありませんが)。私は知らなかったのですが10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」、皆様はご存じでしたか? 自身の健康やSDGs達成などに繋がる私たちができる活動であり、常日頃から気に留めて「必要な分だけ」購入できる強い意志で、秋を満喫したいものです。

(西田 記)

